

# ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医の

カルテ



6



鷹島 慎太郎

(富山市高田)

しんめい動物病院長

近年、犬は散歩でしか屋外に出ない室内飼育、猫は屋外に全く出さない完全室内飼育が主流です。その結果、人間の生活とペットとの距離が縮まり、今まで接することのなかったさまざまなものとペットが接触する機会が増えることになりました。

人間の食事を分けてもらって太ってしまうペットが多く、獣医師はいつも困っています。中には食べると死んでしまうものがありますので、その一部を紹介したいと思います。食品以外にも危険なものがありますので注意しましょう。

一つはブドウです。犬にブドウを食べさせると、腎臓が壊れて尿を作ることができなくなり、急性

## 身近な毒物



食べ物は動物の手が届くところに放置しないことが重要

## ブドウやユリで中毒死も

腎不全を起こします。死んでしまふか、助かったとしても重い後遺症が残る場合があります。

詳しい原因はまだ分かっていません。生のブドウに限らず、干しブドウ(レーズン)でも同様の症状を起こします。水分が抜けて濃縮されているため、より少ない量で中毒になります。従ってブドウパンやレーズン入りケーキ、クッキーなども与えてはいけません。

体重5kgの犬は、板チョコ1枚を全部食べるとチョコレート中毒を発症する危険がありますが、干しブドウの場合だと20〜30粒でブドウ中毒になる可能性があります。

食べ物ではありませんが、猫にとってはユリの花は猛毒で、ブドウ中毒のような急性腎不全を引き起こして死んでしまうことがあります。詳しい原因は不明ですが、ユ

リの花や花粉、葉、莖、球根、生けてあった水などを摂取することで中毒になります。

猫は体についた汚れをなめ取る性質があるので、花粉が体についてただけでも中毒症状を起こす可能性があります。もちろん食用のユリネでも中毒になります。猫を飼っている家では、切り花、鉢植えに関わらず、ユリの花は置かないようにしましょう。仏壇の花にも

注意が必要です。残念なことに、富山県特産のチューリップはユリ科の植物で、ユリ中毒の原因になります。

身近で、思わぬ毒性を持つものの一部を紹介しましたが、毒物に対しては、与えず、近づかせないのが一番です。それでも誤って食べてしまった場合は、できるだけ早くかかりつけの動物病院に相談しましょう。